

業界から一言 製造業

食料品製造／菓子関連は、砂糖、包装資材の高騰が経営を圧迫、更なる値上げが懸念。水産物加工は、アワビを主体とする貝類が中国との競合により、依然として上昇傾向にあり、採算面が厳しい。麺類製造は、一部売上が伸びている企業があるが、小売店や飲食店の景気が回復しない限り厳しい経営状況が続く。

繊維・同製品／織物は、袖裏地の発注が減少して

おり、回復の見込みがない。

木材木製品／木材の販売量・仕入量は、流通部門は若干増加したが、製造部門は不変。仕入価格は流通部門若干上昇したが、製造部門は不変。檜丸太は、出荷が順調なこともあり価格が前月比若干低下した。

印刷／年度末の需要により売上高は微増した。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、年度

末の公共物件の発注減、民需も順調で微増であったが、来期は期待薄。

鉄鋼機械金属／

機械製造は、発注数量が増加傾向に

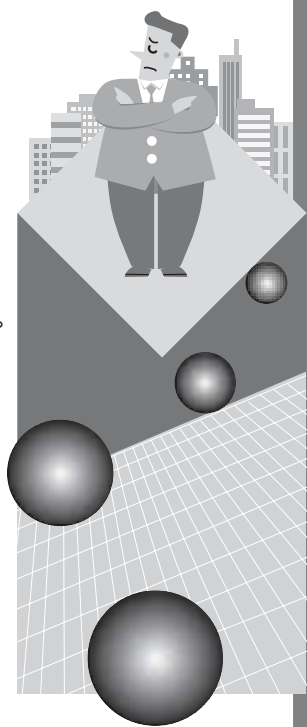
あり、全体的に好調に推移しているが、末端企業の回復は今一歩である。

宝飾品／宝飾品は、低価格商品の動きはあるが、金・プラチナ地金価格の高騰により、中級品の価格が上がり、動きが良くない。

非製造業

小売業／水産物は、新規

開拓した取引先の代金回収が遅延しており、資金繰りが悪化。食肉小売は、米・国産牛肉の再禁輸と出荷頭数の減少等の影響により、仕入価格が上昇し、収益を圧迫。家電は、デジタル機器が牽引して売上は増加したが、白物家電は伸び悩む状況。地域店の生き残り策としては、リフォーム需



山梨県中小企業団体中央会
情報連絡員報告
(平成18年3月分)

景況情報

調査対象の50業界のDI値は、製造業は一部の業界で弱い部分があるが、2月連続して「売上高」がプラス値を示しており回復ぶりがうかがえる。非製造業においても「売上高」が大幅に改善されるなど、全体的に回復の動きが感じられる。

しかしながら原油価格の先高感が高まっており、燃料費等の高騰に加え、原材料、包装資材などのコスト高が多くの産業の収益を圧迫している。

また、生産コスト、仕入コスト等の増加に伴い、資金繰りが悪化している企業も見られるなど、依然として厳しい経営を余儀なくされている企業が見受けられる。

要への対応が必要。燃料販売は、元売各社は2〜3円／ℓ程度値上げしたが、小売店は1月以降の未転嫁分を3円程度値上げした。4月は値上げできずに現状で推移する見込み。自動車販売は、販売量は減少した。利幅のある車種の売り上げが好調であるが、年間の収益は前年を下回った。

サービス業／ホテル・旅館は、消費者の安値価格志向、お得感への対応が難しい。他業界からの新規参入者は、協会や組合に入らないところが見られる。

建設業／建設業は、公共事業の減少が年々10%程度見込まれ、厳しい状況が続く。鉄構工事は、入札競争の激化により、下請へのし寄せが厳しく、受注単価が下落した。管工事は、公共事業の減少の影響により、売上が減少した。加えて材料単価が10〜15%値上がり予定であり、ますます厳しい。型枠工事は、工事量はあるが、安値競争による採算割れで、経営の悪化が懸念。

運輸業／タクシー業界は、3月は異動時期であり、前年並みの売上が確保できたが、原油高騰の影響で経営が厳しい。トラック業者は、荷動きは低調で推移した。加えて、燃料価格が再び上昇したため、経営が厳しい。